

令和元年度 第2回名張市地域活力創生会議 会議録 【要約】

日時：令和元年10月21日（月）

午前9時30分～11時30分

場所：名張市役所2階 庁議室

1. 市長あいさつ

ご多繁のなか、お繰り合わせをいただきましてありがとうございます。第2回目の地域活力創生会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。また日ごろから名張市の活性化のためにご指導をいただき厚く御礼を申し上げます。さて、現在、国におきましても第2期の総合戦略策定を進めているわけですが、私はこの7月から全国知事会の地方創生の本部長に就任することになりまして、全国市長会と心合わせをして国との協議に望んでいけたらと思っているところです。名張市も委員の皆様のご指導によりまちづくりを進めているところですが、これまでの取組による成果も出てきているところでございます。資料「持続ある社会保障制度と地方創生」の中で15ページですが、健康寿命は名張市が全国平均より高くなっています。また、名張市における疾患・脳疾患などで亡くなる方は全国平均より低くなっています。がんについては、男性だけが全国平均を上回っており、これは高齢化率の高まりによって一緒に伸びてきているということになっています。このため、検診率を向上によってがん患者率を抑制していけるよう取り組んでいこうとしているところです。また、高齢化率が高いにも関わらず、一人当たりの介護給付費や医療費が全国平均より低くなっています。介護認定率も同じく、全国や三重県と比較すると低くなっています。これらから、名張の人が健康であると証明していることにもなっています。16ページでは、世帯数の増、15歳未満の転入者数の増などの資料です。これらは、まちづくりの取組によって、名張で子育て教育をという流れができてきている成果の表れです。また、三重県の小中学校の学力テストの結果は全国平均を下回っておりましたが、知事が4～5年前から取組を行った結果、今年、全国平均を上回る結果となりました。その中で、名張の中学生の学力テストの結果は、県内でNo.1となりました。現場での頑張りの成果であると考えているところです。また18ページ、国の第2期総合戦略の策定有識者会議の状況を掲載していますが、増田委員（東京大学客員教授）が座長として中心に進めているところでございます。現在、我々がどんなことを主張しているのかといいますと、19ページ、東京圏の一極集中の是正のための取組、中枢中核都市を中心とした整備に力を入れていくについて、ここから外れている自治体がリストラを思わせるような政策になるため大反対をしています。また、Society5.0（第5の社会）でこれまでの蓄積を最大限に生かした政策を行っていくとのごことでございます。また、これまでの単年度交付金では成果を出すのが困難であるなかで、複数年度交付金としていくかということも議論しているところです。つぎに、「市民意識調査」の4ページでございますが、「名張の住みごこちについて」は約8割が住み心地がよいと答え、「住み続けたい」と思っている市民は84.4%となっています。これまでの

取組の成果の結果と考えており、この流れを確かなものに、また加速化していく必要があると考えています。そんな中で、名張の活性化に向けた5年間の計画を策定していくにあたり、皆様からの忌憚のないご意見を賜りますようよろしくお願いいたします。

2. 委員紹介

○事務局より委員紹介

【市長が議長となり会議を進行】

3. 総合戦略（事務局素案）について

○事務局より説明

○意見交換

（委員）

名張市の「地域経済循環率」は何パーセントぐらいでしょうか？

循環率が高い方が良いというわけではないが、名張市の地域の中でどのように経済を循環していこうという計画があるのか。

（議長）

名張市の中だけではなく、どちらかといえば、伊賀盆地の中で経済の循環が叶えられるように考えている。というのも、伊賀市からの転入者が一番多いこともあり、また伊賀市をはじめ、奈良県の山添村、御杖村、曽爾村などは生活や雇用などの経済圏が一緒ということもあり、広域で考えていく必要がある。これまでも、名張は「暮らしのまち」として取り組んできたが、伊賀市は産業・観光のまちを目指されているのかなと感じており、名張へ住んで伊賀市へ通勤している方が沢山います。今後、368号線が4車線化になれば、さらにその流れが加速化されると思っているところであり、名張で子育て・教育をとということについても、地理的な条件が良く、利便性の良さから、高校受験なども進学校の選択肢が広いとも言われています。

（事務局）

2013年の地域経済循環率は81.9%となっており、市外へ通勤されている方が多いことから100には届いていない状況です。消費の部分についても、利便性の良さから、市外で消費する方が多いことから、このような数字になっていると考えられます。

（委員）

NPOセンターの立ち上げについて、NPOを設立してもほとんど活動していない状況がある。今、私のところで大阪万博に向けて、若者を中心としたワークショップを実施しているが、市民意識調査でも「遊ぶところがない」などといった若者の意見があったと思う。都市部にあるような風俗的な遊び場が名張で発展していくかどうかもあるが、名張ならではの遊び場が考えられないか。課題を自分たちで解決していくような若者によるNPOなど

で、若者が集える場所ができればいいと思う。都会の学生は、自然を体験したり古民家を改修したりすることに興味があると思う。そういったサークルを作ることは考えられないか。

地域の中での取組での、例えば百合が丘の地域づくりはとても進んでいるので、都市部と地域と交流するなども考えられるのでは。学校では学ぶことが出来ないこと、ノーマライゼーション的に障害がある人もない人も関わらず、接点を持つことでお互いを知り合うし、生涯を持っている人またグレーゾーンの人たちの貧困をなくすことに繋がるよう、お金持ちがお金持ち同士、貧困同士が固まってしまうところを、まちづくりを一緒にするなど垣根を越えて関わることでそこから抜け出して、引っ張り上げることができるのではないかと考える。そういった機会を是非つくっていただきたい。

(事務局)

NPOの取組は薄い所があるかと思いますが、今後の取組の中では「関係人口の創出」という部分を謳っています。この部分は、実際、行政が人を呼んでくるということではありませんが、民間ベースでの何らかの受け皿を創出できないかと考えます。例えば、赤目地域では、赤目観光のボランティアガイドの取組や、市内の農地を所有者が解放されているなども聞き及んでいます。ただし、これらの関係性は民間ベースであるため、関わる人口の実態を行政が把握することは難しい所がありますが、今後何らかの形で、把握する手立てを検討していく必要があると考えています。

(議長)

近大高専の学祭があったが、そこでは色々なサークルが面白い研究をしたり、発表している。そういったところで、直接学生へ呼びかけをおこなっても良いのでは。

(委員)

高校生・高専生アンケートの結果が興味深い。企業の人材不足が課題となる中、インターンシップでたくさんの学生が、わが社に来ていただいているが、将来的に就職をきっかけに都会へ行くという話を聞く。名張で就職してもらおうとすると、名張の企業も面白いことをして人材確保に結びつけられたらと思う。

(議長)

近大高専へも相談をしているが、食品化学の関係のニーズが高いので学科を創設していただきたいのだが。今後の課題である。

(委員)

名張へ転入されてきた方のうち、子育てなどの施策を選んでこられている方はどれだけいるのか？転居してきて、新たに仕事を見つけられているのか。

(事務局)

移住者数の中の数値を見ると、子育て支援施策を通じて移住してこられた方が10世帯ほどいらっしゃいます。

(議長)

子育て支援については、名張版ネウボラが全国的になっていること、小児救急があること、

発達支援が全国でもトップレベルで百合が丘の発達支援センターと幼稚園・保育園が連携ができています。それを大学へもつなげていければと思っているところである。

(委員)

名張市では教育へ力を入れているところとのことであるが、ICTについての状況はどうか。

(議長)

スマホやITの機器であったり、早い段階から取り入れている。ただしコミュニケーション不足の問題などが副作用としてあるので、これらを含めた取組を進めていく必要がある。

(委員)

地域として、小学校の児童は地域に居住している子どもなのでやりやすいが、高校は色々な地域から来ているので、どんな形で連携していけるか、愛着を持たせるかが課題。

勉強会などで、地域課題について考えさせテーマを与えることで地域に愛着を持たせる仕組みができればと思う。そこへ青峰高校や名張高校の生徒に加わってもらって、例えば赤目のキャンプ場の活用などの知恵を出してもらって、それに向かって行政が指導する。そうすることで関わっている生徒に達成感が生まれるような仕組みができればと思う。青蓮寺・百合が丘地域には、青蓮寺湖がある、ブドウがある、レークホテルがある、キャンプ場がある、忍者がある、これらをセットにして何か生み出せないか、こういう開発ができれば。以前、カヌーのお客さんに声をかけて聞いたときに、ここは景色がよく、波が無いので絶好の場所であると言っていた。こういったところに、高校生などのアイデアが加わって一緒にできれば最高だと思う。

(教育委員会事務局)

学校教育室から教育用タブレットの導入について説明をします。この8月に市内の各小学校へ1クラス分の台数(20~40台)を導入し、現在は教職員の研修を行っているところです。今後は順次、各中学校へも導入予定です。

(委員)

タブレット機器の導入に留まらず、使い方によって遠隔で授業を受けたり、教育の幅が広がるので色々な活用をお願いしたい。

(教育委員会事務局)

すでに導入している学校において、遠隔授業や、海外と繋げる授業などを取り入れていて、今後も活用方法について研究していく。

(委員)

タブレットの普及によって、今の若い子がWord、Excel、パワーポイントなどが使えない子が多くなっている。その辺り、教育現場ではどのような指導を行っていくのか。

(教育委員会事務局)

キーボードがついていないのでご心配をされていると思いますが、中学校の技術科の

課程でキーボードを使用してWord、Excelの学習を行います。

(委員)

前回、話をした件で、今取り組んでいる「83運動」の見守りについて旗を作っていたかどうかはできないか。また移動販売について、今後はそれぞれの地域でも買い物難民の問題が出てくると思われるが、これについては、地域づくりの取組の中でやっていくという方向性で。

(議長)

ITに関しては名張の教育が遅れているとなつてはいけないので力を入れているが、また語学に関しても小中一貫教育の効果があり、全国的にも例のない伸び率であったので、全市的にやっぺいこうと考えているところである。

(委員)

就職の件で、保育を勉強する課が名張高校にもある。しかし、大学や専門学校それ以上の上位学校に進学となると関西方面へ出て行かれる。その人たちが名張へ就職で戻ってきてくれば良いが、若い世代は都会に憧れている世代でもある。例えば住宅の補助やUSJの優待券など、何かきっかけにもなるようなものが必要なのでは。Uターンで戻っていただけるよう名張独自の施策があればと思う。

(議長)

近大高専でも市民公開講座を行っていて、各企業から我が社がこんなことをしているとPRしてもらって、それをきっかけに就職してくれる学生が出てきている。もっと、伊賀地域の企業にもやっていってもらえたら。

(委員)

高校生アンケートの結果、結婚したいと思っているのが7割、したくないのが3割。学生の感覚は家庭を見て感じていることになるので、行政の問題ではなくて、親として非常に責任を感じるころではある。また、うちの会社でも、名張の本店60人のスタッフがいるうち、結婚をしない社員が多くて悩ましい。そういう人が結婚していけば活性化にもなると思うので婚活などにも取り組めたら。共通の趣味をもった人の婚活イベントなども真剣に会社としても取組としても必要と感じている。

また、若い人が感じる魅力は商業施設などであるという結果で、県外・県内の店舗を維持していくので精いっぱい。会社全体の売上も県外からの収入がほとんど。ビジネスするうえでの立地においても関東方面、関西方面の両面からアクセスが良い。メーカーとの取引には東京に拠がないと厳しいので、最近流行っているシェアオフィス(コワーキングスペース)を借りた。安くてコスパが良い。名張でも利便性のよい所に、シェアオフィスがあればと思う。シェアオフィスのよい所は色々なビジネスマンや起業している人とのマッチングやアイデアを共有できるところで可能性が広がる。名張の立地・特性を生かすことができれば、空いているところ・・・ではなく、積極的に立地の良い所におければ可能性が広がると思う。

(議長)

若い世代は仕事が面白い、忙しいなどの理由で結婚しないという話も聞く。現在、東京一極集中で若い世代 13～14 万人が流入しているが、将来的に東京一極集中が止まって、東京から若い世代が流出する時代が来た時が怖い。また、旧滝之原小学校で松阪電子計算センターがデータセンターを整備して来てくれており、またシェアオフィスのスペースも同時に整備している。

(委員)

日本版 C C R C の注釈を入れたほうがよいのでは。

また、高校生・高専生のアンケート調査の理由・目的は何か？調査目的と結果を具体的に本文に追記してほしい。継続して住んでいた高校生と、市外から来られた高専生の意識が異なるのは当然のことで、住み慣れたところに愛着を感じるのは当然のこと。このアンケートの結果をもって、どう活用していきたいのかを示すことが必要である。

また、全体的な資料の作り方として、「みやすさ」が必要である。最初に「目次」が来て、「はじめに」、次に「人口ビジョン」が来ているが、タイトルが総合戦略となっているので、「総合戦略の全体図」がわかるダイジェストを「はじめに」のあとに加えて、それに沿って、あとに続く分析が流れていくという構成にした方が分かりやすい。一貫性が出るかと思う。

あと、最後に全体をまとめた「おわりに」を追加するほうがよい。若干表現を変える程度でもいいかと思う。

さらに、25 ページで「強み」「弱み」がきて、次に「機会」「脅威」(SWOT 分析)を加えておかないといけないと思う。市長の挨拶にもあったが、全体的に全国の自治体で消滅していくまちがある。将来的な大きな流れの中では、中枢中核都市が残るといったことも触れておいてもよいのでは。近隣市町の状況を見ても、そこを名張が担っていくことになるのではないかと思うが、どこかでまとめていただければと思う。

最後に、第 1 期と第 2 期の総合戦略のどういう違いがあるのかをまとめていただければ、さらに重点を置くか、継続していくもの、強化していくもの、さらにビジョンとして持っていくものを示せば、より分かりやすいのではと思う。

以上